



糖と糖代謝

コード	検査項目 JLAC10コード	検体量(mL)	容器 (No.)	保 存	所 要 日 数	実施料 判断区分	検査方法	基 準 値	備 考	異常を示す主な疾患
2029	グルコース 3D010-0000-019-272	フッ化Na 血液 1.0	2	血液 冷蔵	1~2	11 生化I*	酵素法 (ヘキサキナーゼUV法)	55~109 mg/dL		【高値】糖尿病・肝疾患・胃切除後 クッシング症候群・悪性腫瘍 【低値】高インスリン血症・肝癌 下垂体機能低下症・アジソン病
2188	グリコアルブミン 3D055-0000-023-271	血清 0.5	1	冷蔵	3~4	55 生化I	酵素法	11.6~16.4 %	血漿(フッ化Na, EDTA, ヘパリン)でも測定可	【高値】糖尿病・肝硬変 甲状腺機能低下症 【低値】ネフローゼ症候群 甲状腺機能亢進症
9032	HbA1c(NGSP) (ヘモグロビンA1c) 3D046-0000-019-271	フッ化Na 血液 1.0	2	血液 冷蔵	1~2	49 血液	酵素法	4.6~6.2 %		【高値】糖尿病・腎不全 異常Hb血症 【低値】低血糖・溶血性貧血
2166	1,5-AG (1,5-アンヒドロ-D-グルシトール) 3D085-0000-023-271	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	80 生化I	直接・酵素法	男 14.2以上 女 13.5以上 μg/mL	乳びおよびマルトース 輸液直後の血清では高値 を示すことがある	【低値】糖尿病・慢性腎不全 腎性糖尿病
9326	ケトン体 3E040-0000-023-271 3E040-0000-001-271	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	30 生化I	酵素法	26~122 μmol/L		【高値】糖尿病・感染症 発熱・運動 飢餓・下痢・嘔吐 甲状腺機能亢進症 末端肥大症・クッシング症候群
9494		尿 1	6		1~3			μmol/L		
2168	ケトン体分画 3E045-0000-023-271 3E045-0000-001-271	血清 0.5	1	冷蔵	1~3	59 生化I	酵素法	総ケトン体 26~122 アセト酢酸 13~69 ヒドロキ酢酸 76以下 μmol/L		
9277		尿 1	6		1~3			μmol/L		
2115	乳酸 3E010-0000-031-271	除蛋白 液 0.5	1 2	上清液 凍結	2~4	47 生化I	酵素法	3.3~15.6 mg/dL	下表参照	【高値】肝障害・循環不全・尿毒症 アルコールシス 【低値】糖尿病II型 乳酸脱水素酵素欠損症
2116	ピルビン酸 3E015-0000-031-271	除蛋白 液 0.5	1 2	上清液 凍結	2~4	47 生化I	酵素法	0.3~0.9 mg/dL	下表参照	【高値】重症肝疾患・尿毒症・循環不全 糖尿病I型・ビタミンB1欠乏症 【低値】筋グリコーゲン病

* 血液化学検査の包括 1回に採取した血液を用いて5項目以上の検査を行った場合
5~7項目：93点 8・9項目：99点 10項目以上：109点

※ヘモグロビンA1c、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか一項目を月1回に限り別に算定できる。また、クロザピンを投与中の患者については、ヘモグロビンA1cを月1回に限り別に算定できる。

※ケトン体及びケトン体分画の検査を併せて行った場合は、ケトン体分画の所定点数のみ算定する。

ピルビン酸・乳酸の前処理の方法

項 目	専用除蛋白液入り試験管	採血量	操 作 法
ピルビン酸	乳酸・ピルビン酸用PCA液 (内容:0.8N過塩素酸1mL)	1 mL	①各専用除蛋白液入り試験管に指定量の血液を加え、しっかりキャップを閉めます。 ②約20秒間激しく転倒混和します。 ③3,000rpm、10分間遠心し、上清を「一般検体用」容器に移します。 ④凍結して保存します。
乳 酸			